

令和4年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育宣言	ユネスコとSDGsから世界を学び、徳育より日本の心を育む浜松開誠館
学校教育目標	主体的でたくましく心豊かな地球市民の育成をめざす ・自分の意思を言葉に出し行動できる ・周囲の幸せを考えることができる
育成する生徒像	・一人ひとりが、かけがえのない存在であるという確信のもとに、期待される人であるという自信と誇りを持てる生徒 ・自分も他人をも大切にできる、温かな心をもった生徒 ・学ぶ楽しさを感じ、夢を言葉で表し本気で行動できる生徒 ・グローバル社会の中で、社会と家庭における自己の使命と役割に目覚め、課題解決のために人と協力して活動できる生徒
令和4年度重点指導目標	1. 「和」の心を大切に本校の教育の柱「徳育」を確立する。 2. ユネスコスクールとしての誇りを持ち、課題解決に向けて主体的に考え行動できる生徒を育成する。 3. 学力向上を目指す(依存的学習者から自立的学習者へ)

学園重点目標	①豊かな発想と思考力を導く指導と主体的行動が広がる教育力を発揮します。 ②SDGs＝浜松開誠館の評価を得る活動をしします。 ③英検＝浜松開誠館の評価を得る実績確保に努めます。 ④再エネ100宣言REAクション参加校としての実践活動に努めます。 ⑤徳育教育の浜松開誠館と外部評価の声が高まる指導力を発揮します。 ⑥愛情教育と愛校心で楽しく学ぶ学校を目指します。 ⑦ユネスコスクールに相応しい学びの指導をします。 ⑧本校No.1の教職員を目指し、2年後の創立100周年の目標西部地区私学No.1の実現へ繋げます。 ⑨「立ち止まり挨拶」100%実現のできる指導をします。 ⑩「ICT教育」「グローバル教育」の安定・充実を強化し、結果のみえる指導をします。
--------	---

評価項目	担当者	目標	具体的な活動・取り組み	判定	自己評価 (成果および改善点)	学校関係者評価委員による評価	
						自己評価は適切か	学校関係者からの主な意見
徳育指導	徳育課長	・「K-compass」「7つの習慣J」の授業プログラムをブラッシュアップし、質の向上を図る。 ・フォーサイト手帳を活用し、生徒に主体的学習者への一歩を踏み出させる。	・徳育事業(授業・出張授業・オープンキャンパス)の充実を図るために、綿密な計画準備のもと、組織的かつ長期的に取り組んでいく。 ・徳育授業(K-compass、7つの習慣J)の質を高める。 ・K-compass roomやライブラリー室の教材などを管理し、整理整頓を徹底する。	B	・徳育がSDGs、探究活動や自らの生活を向上していくためのスキルとなるよう、プログラムを改善した。 ・徳育プログラムでは、生徒は学習後にチャレンジの振り返りを行い、学習内容を習慣化することができた。また、学習内容と生徒の感想などをまとめた通信を保護者へ発信した。 ・フォーサイトの活用で自発的な行動となるよう、クラス担任への情報発信を継続し、担任が情報発信や助言が適切に行えるように、方法の改善を継続していく。 ・ライブラリー室の教材、備品の整理を適切に行った。	A	・社会との繋がりを意識した教育が実践されている。 ・保護者対象徳育セミナー(7つの習慣J体験)があると保護者の理解促進につながる。 ・学校で「7つの習慣」を学べるのは有意義。卒業生にどう生きているのかフィードバックを示してもらえると生徒にも参考になる。 ・SDGsに関して中学から学べるのは本当に良いこと。
学習指導	教務課長	・学習指導要領に沿った、自立的学習者を育成する。 ・円滑に教育活動に取り組めるように環境を整備する。	・新学習指導要領を実践し、授業力・学力向上の推進として、教科全体・個人としてテーマを決め実践し質の高い授業を目指す。また教科のテーマに基づいて、各教科で研究授業を行う。ICT機器を活用した授業実践をサポートする。(Qubenaの活用・希望者対象スタディサブリ)の参加促進) ・評価評定の適切な実施に向けた支援・管理をする。 ・読書活動の充実を図る。	B	・新学習指導要領に沿った教育活動を行い、教育の目標に向け取り組んだ。ICT機器の活用については、浸透してきているが、さらなる活用方法を研究する。 ・Qubenaなどのデジタル教材の発展も進んでおり、どの教材を活用するのか検討を要する。 ・評価評定は適切に実施できている。評価をするための授業ではなく、習得を念頭に置いた授業研究を進めていく。	A	・定期テストの廃止は関心が高い。効果を数値等で示してもらえると子どもにも説明しやすい。 ・単元ごとの確認は先生にも生徒にも丁寧。iPad授業はプレゼン力の向上などで本当に良かった。 ・良い点数、良い学校をめざしていた昔の世代の学び方とはずいぶん違うし、実際に変わってきている。 ・大学一般入試への対応が少し心配される。
進路指導	進路課長	・生徒自らが未来に向けて希望を持ち、仲間や教員との触れ合いの中で自らの夢を育み、成長していく進路活動支援を行う。 ・生徒が主体的に将来の自分を言葉にでき、将来に向けた行動ができるよう進路支援を行う。	・SDGsをはじめ、世界・地域社会に貢献する目的と意志を持った生徒を、進路活動を通して育成する。 ・生徒・保護者の希望をふまえながらも、より高い目標を目指すように促し、進路実績、生徒募集活動に貢献し得るものになるように各学年で進路支援を行う。 ・放課後予備校マナビングと連携・連動した進路指導を実践する。	B	・大学入試担当者に来校してもらい、校内大学説明会を開催した。パンフレットやホームページでは得られない大学の生の情報を生徒は聞くことができ、進路を考える機会となった。 ・校内での進路説明会や保護者進路説明会、進路講演会を各学年適切な時期に実施した。 ・校内で実施された進路活動の様子は本校ホームページのウェブで翌日までに発信した。低学年において上級学校進学後の将来設計についての指導を検討していくことが課題である。	A	・定例の校内大学説明会は良い取り組みで推進したほうがいい。 ・早い時期から進路選択の幅を広げる機会の創出は評価できる。 ・大学に限らず偏らない幅広い説明会の機会もあるといいのではないかと。 ・A0合格者等、入学前課題のフォロー体制を充実してもらいたい。 ・生徒の特性(向き不向き)を活かした進路指導を希望したい。
生徒指導	人格品格指導課長 部活動推進課長	・全校生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を作る。	・社会で通用する開誠館生の育成(自主・自立)を意識した指導、助言を行う。 ・教職員全体が連携して統一した生徒指導を実践する。 ・TPOに応じて立ち止まり挨拶などを実践できるよう指導する。 ・生徒会や専門委員の活動などを通して、生徒自らSDGsを意識した活動やよりよい学校づくりを目指し、積極的に活動するよう指導する。	A	・教員間の相互理解の場として毎週会合を開き、各学年における課題や問題点などを共有し改善に向けた話し合いを行った。 ・毎朝、正面玄関前に立ち登校する生徒へ挨拶と声かけを行った。 ・生徒会を中心に主体的な活動を行い、校則検討については検討委員会を立ち上げ、次年度からの校則変更に向けた話し合いを行った。	B	・学校内ではあいさつをするが、校外(周辺地域)では十分に実践されていないように感じる。 ・校則検討は生徒が当事者なので話し合える場面があるのはいい。子供たちが決めるということが増えるといい雰囲気になる。 ・カジュアルデーは制服で登校している生徒も多いようだが、必要だろうか。 ・どの先生も真剣に向き合ってくれている。
保健安全管理	人格品格指導課長 (保健教育相談) 事務課長	・生徒・教職員の心身の健康への支援をし、不登校・いじめ等の予防、早期発見をする。 ・防災意識の向上を図る。	・生徒指導担当者やスクールカウンセラー等関係者と連携のとれた教育相談活動を実施し、生徒理解のための一覧表作成や検査を行う。 ・教育相談的な視点に関する参考資料・実践事例を紹介し、教員間で共有を図る。 ・いじめアンケートなどを実施する。 ・校内美化を推進し、用具を大切に扱う意識の向上を図る。	A	・健診、検査等を実施後、速やかに疾病一覧を作成し、配慮が必要な生徒について周知した。 ・hyper-QU検査を実施し、クラスごとの特徴について説明会を実施し、生徒理解につなげた。 ・不登校や悩み等について、スクールカウンセラーによる教育相談を実施し、関係職員で共通理解を図った。 ・教育相談関連記事を2ヶ月に1回程度配布、年2回のいじめアンケートを実施し、その後の追跡調査をおこない、いじめの防止に努めた。	B	・目標では防災意識の向上とあるが、現状維持となっているので、意識向上につながる取り組み・行動を掲げるといい。 ・災害時の学校(生徒)と地域との協力については、地域との繋がりを大事にしながらも、生徒の状況も踏まえ対応出来ると良い。 ・良く考えられた対応・対策に感謝したい。
保護者等への情報配信	中・高教頭 広報課長	・校内外の情報発信を強化し、本校の教育的取り組みの見える化を図り、学校としてのブランディングにつなげる。	・外部へはホームページ・SNSを活用して、本校の教育活動(学習・部活動・行事など)を随時発信する。 ・学年・学級においてはClassiを活用した保護者への情報伝達を行う。 ・広報イベント告知のツールを作成し、保護者や本校に関心のある方へ配布する。 ・新聞・テレビ等メディアへのプレスリリースを行う。	B	・ホームページにおいて学校行事、学年活動など本校の教育活動について随時発信することができた。今後はSNSでの発信を強化していく。 ・オープンキャンパスをはじめとした広報イベント告知ツールについて、本校の教育や教育的特色を表現したツールを作成することができた。 ・新聞・メディア等プレスリリースによって多くのメディアから取材を受けた。 ・校外活動の様子など、保護者向けにはClassiにより具体的な情報配信を行った。	B	・アリーナⅡの電光掲示板の更新頻度を上げるといい。 ・随時Classiで情報を発信してもらい保護者としては助かった。 ・HPはもう少し見やすく刷新した方がよい。 ・評価委員会と共有したような学校取り組みをもっと保護者に発信して取り上げると、より理解が深まる。
地域住民との連携	事務課長 総務班長	・学校と地域の有機的な連携と協働体制を構築する。	・地域住民の方々に学校行事(文化祭や体育大会)の案内を出し、参加をさせていただくことで、本校の取り組みを知っていただく。 ・地域福祉協議会との関係を築き、地域からの要望に応え、諸活動に協力する。 ・アリーナⅡのPPAモデルによる太陽光発電システムを設置し、SDGs教育と連動した再エネ比率向上の取り組みや施設充実、地域貢献を行う。	B	・コロナ禍により真澄祭バザーが中止となり、近隣住民の方に来場していただけなく残念であった。体育大会には近隣自治会長の皆さまにご来場いただき、本校生徒の主体的で活気ある活動の姿をご覧いただくことができた。 ・アリーナⅡもPTA役員に施設を見学していただき、アリーナの安全な使用状況を理解していただくことができた。	B	・地域住民として学校行事に招いてもらいありがたい。「ふれあいコンサート」は大きな成果。定期的なイベント実施を希望したい。 ・運動部をはじめ生徒の活躍は地域としても応援している。 ・学校のSDGs実践校・ユネスコスクールとして、一方通行ではなく相互交流になるといい。 ・保護者セミナーに地域の方も参加してもらえるといいのでは。
グローバル推進	グローバル推進課長	・自分の意志を言葉に出して行動でき、周囲の幸せを考えることができる、主体的でたくましい心豊かな地球市民(Caring Global Citizen)を育成する。	・英語力到達目標を達成する。グローバルのカリキュラムを更に実践的にする。 ・中学・高校グローバルコースの生徒募集目標を達成する。 ・「心豊かな地球市民=Caring Global Citizen」を育成する。 ・自分の意志を言葉に出し行動でき、周囲の幸せを考えることができる生徒を育成する。 ・海外研修を円滑に行う。	A	・英検を基準とする英語力の診断では、中学グローバルコースは3級以上82%(静岡県平均36%)、高校グローバルコースは準2級以上92%(静岡県平均54%)とどちらも県平均を大きく上回った。 ・気候マーチや気候サミット、ウクライナ募金活動、屋の英語ラジオ放送など、たくさんの生徒発信のイベントを開催することができた。	A	・英検の取り組みはさらに促進してほしい。 ・中学の学習発表会のように、高校グローバルコース生の発表の場が中学生や他コース生、あるいは地域の児童・生徒に向けてであると、生徒同士の刺激になるのでは。 ・海外基準に沿った対応になっている。海外研修が増え、学校間の国際交流を進めるといい。